

学而第一

子曰、巧言令色、鮮矣仁。

し い 子曰わく、こうげんれいしよく すくな じん 巧言令色、鮮きかな仁。

(1-3)

< 巧言令色 >

Q : 「巧言令色」とは何ですか。

- A : (1) 「たくみに言葉を飾ったり、たくみに顔色をとりつくるったりする人物には」の意。
 (2) 「口先がうまくて、あいそうのいい顔つきをする人には」の意。
 (3) 「巧」とは、「好」「たくみ」の意。「巧言」とは、言葉がうまくて、心にもない愛想、お世辞を言う、たくみに言葉を飾ったりすること。これでは、その人の本心が疑われる。
 (4) 「令色」の「令」とは、「善く」の意。「令色」とは、顔色を善くして人の気に入るよう顔色を飾ること。たくみに顔色をとりつくるったりすること。
 (5) 相手を喜ばそうと、言葉をたくみに使っておべんちゃらを言ったり、外見の体裁やファッションだけにこだわるような「うわべだけの人」の意。

< 鮮きかな仁 >

Q : 「鮮きかな仁」とは何ですか。

- A : (1) 「ほとんど仁(人間愛)の道は無いと言ってよい」の意。
 (2) 「愛情の真実心は少ないものだなあ」の意。
 (3) 「人の本心の徳たる真実心はほとんどない」の意。
 (4) 孔子は、また、「剛毅木訥は仁に近し」とも言っている。(13-339)

2011年5月23日林明夫記

子路第十三

子曰、剛毅木訥、近仁。

しい ごうきぼくとつ じん ちか
子曰わく、剛毅木訥は仁に近し。

(13-339)

< 剛毅木訥 >

Q : 「剛毅木訥」とは何ですか。

- A : (1) 「剛」とは、「私心がなく、無欲なこと」の意。「物に屈せぬこと。殊に物欲に屈従しないこと」の意。
- (2) 「毅」とは、「意志が強く、思いきりのよいこと」の意。果敢であること。正しいことについて断ずること、知っていること。
- (3) 「木」は「樸」と同じで、「山出しのありのままに飾り気のないこと」の意。質朴、素樸そぼくの意。
- (4) 「訥」とは、「口べたであること」の意。「言葉数の少ないこと」の意。
- (5) 剛毅木訥には、剛は無欲、毅は果敢、木は質樸、訥は遅鈍と、1つ1つ言葉の意味があることにはあるが、ひとかたまりの熟語として人々の口に慣れた言葉であった。

2011年5月23日林明夫記